

富岡美子作 「決 別」

平野三紀 (エコー 夢の中) 来ないで。近寄らないで。あたしはもうあんたたちとは遊ばないの。やめて！(多重エコー)

母 三紀、三紀、いつまで寝てるの？ 早くしないとまた遅刻するでしょ？

三紀(モノローグ) (夢から覚め) あー夢か…。最近見るの、同じような夢だな。それもイヤな夢がっかり。あー、かったるい。それにしても、朝が来るのが早いんだよね。寝たかと思ったら、もう朝。

(効果音) (キッチン)

母 何をグズグズしてるの？ 早くご飯食べて学校へ行かないと。「今年は遅刻しません」って誓ったのは、どこのだれ？

三紀 うるさいな。そんなこと分かってるわよ。眠いんだもん、しょうがないでしょ。

母 眠いのは当たり前でしょ。あんなに夜遅く帰ってきて、一体どこで何をしてるの、10時過ぎまで？

三紀 友達のところ。

母 お前だけですよ、そんなことをしてるのは。この前もお隣の昼間さんから言われましたよ。「お宅の三紀ちゃん、いつも帰りが遅いのね。塾へでも行ってるの？」って。お母さん、言葉が出なかったわよ。

三紀 そんなの、あたしの勝手でしょ。何よ、お父さんだって、お母さんだって、夜遅く帰ってきたり、自分勝手なことしてるじゃない。

母 それとこれとは…。そんなことより、早くご飯食べて。

三紀 要らない。

母 朝ごはん抜きは体に悪いでしょ。

(効果音) (戸を激しく閉める音)

ナレーション 朝から穏やかならぬ女の子、平野三紀は青春中学 2 年生。新しい年を迎え、「今年こそ無遅刻で頑張るぞ」と、自分にも、両親にも誓ったのですが、それもつかの間、どうやら今朝も遅刻のようです。

三紀 えー、あと 3 分しかない。急がなくちゃ。

男子 (遅刻して走りながら) よう、三紀、おはよう。よかったあ。おれ、お前がいるからホッとするよ、仲間がいて。今年も仲良くしようぜ。

三紀 うるさいわね。あんたなんかと仲良くするの、ごめんよ。あたしはね、今年はずじめに登校するって決めたの。

男子 へえー、お前が？ 笑わせるなよ。

三紀 バカにしないでよ。あたし、あんたなんかと話してる暇ないの。じゃあね！

(効果音) (始業のチャイム。教室のガヤ)

担任 平野、またお前か。

三紀 すみません。

担任 ホームルーム終わったら、ちっと職員室へ来なさい。

三紀(モノローグ) 何よ、遅刻したぐらいで呼び出したりして。あたしだって、心の中で反省してるんだから、それでいいじゃない。

(効果音) (職員室のドアの開閉)

三紀 先生、なんでしょうか。

担任 あ、平野か。ま、そこへ座れ。ちょっとお前に聞きたいことがある。

三紀 何ですか？

担任 お前、ちょっと遅刻が多すぎるぞ。まだ夜遊びしてるのか？「来年になったら心を入れ替える」って言ったのはウソだったのか？

三紀 いいえ。

担任 ある人から耳にしたんだが、お前、また 9 時過ぎまで、フラフラしているそうだな。お前に限ってそんなことはない、わたしは信じているが、どうなんだ？

三紀 …。

担任 黙ってたら分からないだろう。女子中学生が、そんな夜遅くまで出歩いて、いいと思っているのか？ 何度言ったら分かるんだ？ ご両親はお前がどこで何をしてるのか知ってるのか？

三紀 (小声で) 親なんて関係ないでしょ。

担任 なんだ、その言い方は?! ま、いい。そろそろ 1 時間目の授業が始まるから、教室へ戻りなさい。

(効果音) (教室のガヤ)

和美 ねえねえ、どうしたの、三紀？ ずいぶん話が長かったじゃない。

三紀 なんでもないよ。

和美 その様子だと、クドクドとお説教されたな。

三紀 ホツといてよ。和美なんか関係ないでしょ。

和美 何よ。人がせっかく心配してやってるのに。

三紀(モノローグ) (エコー) あたしにだって、いけないってことぐらい分かってるわよ。だから、今年こそはまじめになって、夜出歩くのはやめて、遅刻しないように頑張ろうって決心したのよ。だけど、どうしてもわたしの心が言うことを聞かない。悪いことだって分かってるのに、なぜ？ どうしてなの？(多重エコー)

ナレーション 三紀の遅刻の原因は、ただ単に朝起きられないというだけではありませんでした。三紀の両親は共働きで、その上、父親は帰りが遅く、母親も、夜、家を開けることが度々でした。一人っ子の三紀は、いつも家に両親がいないことに寂しさを覚え、それを紛らわすために、しばしば夜、出歩いていたのです。そのうちに、悪い仲間と知り合うようになり、いけないことだと知りつつも、両親に隠

れて夜遊びをしていたのです。

さて、その日のお昼休み——。

(効果音)

(教室のガヤ)

女子 三紀、三紀—。ちよつとちよつと。

三紀 何？ そんなに大きい声出して。

女子 どうしたのよ。浮かない顔してるじゃん。あ、そう言えば、三紀、今朝、あいつに呼び出し食ったんだって？

三紀 なんで知ってんのよ？

女子 あたしは“地獄耳”なの。ま、いいじゃん。あいつに何言われたか知らないけど、そんなこと、気にしない気にしない。あ、そうだ、これから、今日の夜、どこで何して遊ぶかみんなで決めるんだ。三紀を呼びに来たんだよ。

三紀 どこで話すの？

女子 裏庭。だってさ、先公たちに見つかったらヤバイじゃん。新年早々、お説教は聞きたくないからね。

三紀 ごめん。あたし、あとから行くから先行ってて。

女子 分かった。じゃ和美と待ってる。

三紀(モノローグ) 今日こそみんなに話さなくちゃ。このままズルズルと遊んでいたら、しまいには、あたしはダメになっていしまう。勇気を出して断らなくっちゃ。

和美 三紀、遅いじゃん。

女子 大体決まっちゃった。原宿辺りで、ナンパなんかどうかってね。三紀、あんたも行くでしょ？

和美 モチよね？

三紀 え、あたし…。

女子 あんたは来るのが遅かったんだから、グズグズ言わない！

三紀 あのさ、あたし、皆に話したいことがあるんだ。

和美 何よ、まじめな顔しちゃってさ。

三紀 あたしさ、もう遊びたくない。

女子 なんだよ、急に。

三紀 だからさ、あたし、もう夜遊びはやめたいんだ。

和美 三紀、一人でいい子ぶろうって言うの？

三紀 そうじゃないけどさ、このままだと、あたし、ダメになってしまいそうなんだ。

女子 今更何言ってんのよ。あんたが「仲間に入れてほしい」って言うから、あたしたち面倒見てやったんじゃない。それが何？ もうあたしたちとは付き合いたくないって？ 三紀、あたしたちを軽く見ないでよ。放課後、ゆつくりとあんたの話を聞こうじゃない。いいわね？

(音楽)

(不気味な予感)

ナレーション 三紀の心は真っ暗になりました。このグループが、仲間を裏切った者に対して
どんなにひどい仕打ちをするか、以前仲間だった友達に聞いていたからです。
その子の体には、まだその時のアザが幾つも残っていたのです。

三紀(モノローグ) どうしよう。できない、あたし。

ナレーション その時、三紀は、ふっと小学6年の時の担任の西崎先生のことを思い出しまし
た。先生はクリスチャンで、三紀も6年の時は教会学校に通っていたのです。
今でも、クリスマスや彼女の誕生日には、カードを贈ってくださるのです。

三紀(モノローグ) 西崎先生、「困ってる時や苦しい時はいつでも着なさい」って言ってくれたっけ。
——先生に相談しよう！

ナレーション その夜、三紀は西崎先生に、すべてを話しました。家のこと、寂しさから悪い
仲間に入ったこと、でもこのままではダメになると思い、新しい年を迎えて、思
い切って抜け出そうとしたけれど、最後の勇気が出ないことなど。

西崎先生 ……そうか。いろいろあったんだ。でも不思議だな。三紀ちゃんが中学行ってか
ら、妙に気になって、どうしてるか、いつも祈ってたんだ。

三紀 え、先生が、あたしのこと？

西崎先生 そうだよ。出、もうすぐ3年生だし、“一度会ってみたいな”って思ってたところな
だ。イエス様のお導きだな。

ナレーション 三紀は、心の中に温かいものが流れるのを感じました。そして、かつて毎週
のように聞いていた“イエス様”という言葉が、今、初めて生き生きと響いてきた
のです。

西崎先生 三紀ちゃん。三紀ちゃんの今置かれている環境や、悪い友達の仲間に入った
気持ち、先生よく分かる。僕もそうだったんだ。ただね、自分がこうなったの
は、親のせいだ、学校の制だ、友達が悪いんだ、と周りのせいにしてるうち
は、問題は解決しないんだよ。周りがどんなであろうと、大切なのは、自分自
身なんだ。

三紀 はい、あたしも、このごろ、そんな気がしてきたんです。

西崎先生 うん、よかった。そして君は今、これまでの古い自分に別れを告げて、新しい
自分に生きようとする。そのために、その最後の壁を乗り越えようともがいて
るんだ。

三紀 最後の、壁？

西崎先生 そうだ。三紀ちゃん、古い自分を捨てるのは、そんな生易しいもんじゃないよ。
時としてそれは痛みを伴うんだ。精神的だけでなく、肉体的にもね。——三
紀ちゃん、自分の影、見たことあるだろ？

三紀 自分の、影？

西崎先生 うん。影はどこまでもついて回る。自分が逃げると追っかけてくるんだ。三紀ち
ゃん、逃げちゃいけないよ。あの悪い仲間の前に立つことは、古い自分自身に

正面切って対決することなんだ。それをやり遂げた時に、新しい君が生まれてくるんじゃないかな。

ナレーション

次の日の夕方、三紀は彼らの待っている荒川の土手に独りで向かいました。遠くに人影を見つけると、三紀は早鐘のような心臓の高鳴りを抑えながら、彼らに向かって歩いていきました。ゆうべ西崎先生が別れ際に言った、「独りじゃない。イエス様がついているんだ」という言葉を、何度も何度もかみ締めながら――。

(音楽)

(勇敢さに満ちたエンディング音楽、高まって。)

聖書の言葉

神は、み心のままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。(ピリピ 2:13、14)

<完>